

A 地域・連携部 最後まで頑張る子

○ 保護者・地域との連携を強化する

- ・保護者会や相丘小だより・HP等で、積極的に学校の情報を発信・共有する
- ・地域や保護者からの声には誠実な態度、謙虚な気持ちをもって接し、信頼関係を作っていく
- ・児童が見通しをもって工夫して活動できるような教育活動の推進を目指す
- ・B、C、Dとの連携を深め、よりよい教育課程の編成を推進する

| 評価対象 | 項目 | そう思う | | ややそう思う | | ややそう思わない | | 思わない | | 分からない | |
|------------------------------|--|------|-----|--------|-----|----------|-----|------|-----|-------|-----|
| | | R6 | R5 | R6 | R5 | R6 | R5 | R6 | R5 | R6 | R5 |
| 児童 (519人) | 1 学校へ行くのが楽しいです。 | 57% | 57% | 27% | 26% | 5% | 6% | 5% | 5% | 6% | 6% |
| | 2 友達と協力して行事などに取り組んでいます。 | 57% | 54% | 29% | 32% | 5% | 5% | 3% | 2% | 6% | 7% |
| | 3 地域の行事に進んで参加しています。 | 34% | 21% | 24% | 32% | 14% | 16% | 14% | 12% | 14% | 19% |
| 教職員 (35名) | 1 学校は、学校だより・HP等で児童の活動や学校の様子をわかりやすく伝えている。 | 74% | 83% | 26% | 17% | 0% | 0% | 0% | 0% | 0% | 0% |
| | 2 一斉LINEを利用し、学校からの連絡・情報を適切に伝えている。 | 89% | 86% | 11% | 14% | 0% | 0% | 0% | 0% | 0% | 0% |
| | 3 地域や保護者から学校に寄せられる声には、誠実な態度、謙虚な気持ちをもって接している。 | 83% | 89% | 11% | 11% | 0% | 0% | 0% | 0% | 6% | 0% |
| | 4 地域と共に子どもを育てていくことを理解し、すすめている。 | 69% | 66% | 26% | 34% | 2% | 0% | 0% | 0% | 3% | 0% |
| 保護者 (211名) | 1 ご家庭で、保護者会・学校学年便り・HP等で、学校の様子を積極的に知るようにしている。 | 44% | 45% | 42% | 44% | 12% | 7% | 1% | 2% | 1% | 2% |
| | 2 学校でお子さんが意欲的に学校生活を送れるよう、ご家庭で声掛け等、配慮している。 | 52% | 52% | 45% | 43% | 7% | 4% | 0% | 0% | 0% | 1% |
| | 3 家庭で、学校・地域との連携を深めるよう努めている。 | 19% | 19% | 52% | 54% | 23% | 19% | 4% | 5% | 2% | 3% |
| | 4 お子さんは、取り組んだことを最後まで頑張ることを大切にしている。 | 41% | 43% | 45% | 42% | 10% | 10% | 1% | 3% | 2% | 2% |
| 地域 (コミュニティ・スクール関係の方々 20名) | 1 (学校運営協議会委員)学校運営の基本方針について理解を深める事を通し、地域と共にある学校づくりに参加することができた | 75% | 22% | 17% | 67% | 8% | 11% | 0% | 0% | 0% | 0% |
| | 2 (地学連協委員)子ども達の豊かな心を育む活動を通し、地域で学校理解の輪を広げる努力をすることができた。 | 38% | 0% | 44% | 56% | 12% | 33% | 0% | 0% | 6% | 11% |

【考察】

① 児童アンケートより

⇒ 学校生活を楽しく前向きに過ごしている子が80%強で、昨年度とほぼ変わっていません。今後「そう思う」の割合が更に向上するよう、児童に働きかけていきたいです。

② 児童2、保護者3:家庭と地域のつながりが薄い課題

⇒ 地域の行事に進んで参加している子の割合が少ないです。休日さえも習い事等の予定で、忙しく過ごしているか、又は、コロナ禍以降、地域行事への働きかけが薄くなってきていることの表れだと考えます。

③ 地域1:育てたい子ども像の共有がなされてきた。

⇒ 学校説明会、学校運営協議会等で、「目指す子ども像」をお伝えしてきた結果、学校運営協議会委員の中で、学校運営の基本方針への理解の深まりに対しての割合が大幅に上がっていました。今後も、目指す子ども像を共有し、協力体制の強化を図っていきたいです。

④ 保護者アンケート回答より

⇒ 昨年度の回答数が340名に対し、今年度は211名と大幅に減少しています。周知の方法を改善し、より多くの回答が得られるよう、今後も家庭との連携を密に図っていきます。

B 教育研究・管理運営部 自ら学び 考える子

○言葉の力を活かして、自ら考え表現する子の育成
 ～伝え合う活動に焦点を当てた授業づくり～
 ・語彙力を付けさせるための指導の工夫
 ・読書が楽しくなる取り組み

| 評価対象 | 項目 | そう思う | | ややそう思う | | ややそう思わない | | 思わない | | 分からない | |
|--|--|------|-----|--------|-----|----------|-----|------|-----|-------|----|
| | | R6 | R5 | R6 | R5 | R6 | R5 | R6 | R5 | R6 | R5 |
| 児童 (519人) | 4 授業で学ぶことが楽しいです。 | 51% | 47% | 29% | 36% | 8% | 9% | 7% | 4% | 5% | 4% |
| | 5 自分の思っていることや考えていることを みんなに伝えることができます(発表・作文等) | 40% | 33% | 28% | 33% | 13% | 14% | 12% | 15% | 7% | 5% |
| | 6 進んで本を読みます。 | 42% | 45% | 28% | 27% | 14% | 12% | 10% | 11% | 6% | 5% |
| 教職員 (35名) | 5 『楽しい授業』『わかる授業』を実践し、授業を工夫している | 52% | 71% | 34% | 20% | 3% | 0% | 0% | 3% | 11% | 6% |
| | 6 校内研のテーマに基づき、指導力を磨き研修と修養に努めている | 31% | 46% | 49% | 40% | 9% | 9% | 0% | 0% | 11% | 5% |
| | 7 保護者の理解を得て、家庭学習の充実を図っている | 40% | 49% | 46% | 37% | 0% | 6% | 0% | 0% | 14% | 8% |
| | 8 読書量を増やす工夫をしている。 | 23% | 40% | 60% | 34% | 6% | 20% | 0% | 0% | 11% | 6% |
| | 9 ICT活用を進んで行っている。 | 26% | 29% | 49% | 46% | 11% | 20% | 3% | 0% | 11% | 5% |
| 保護者 (211名) | 5 児童は、家庭学習に意欲的に取り組んでいる。 | 27% | 25% | 43% | 40% | 19% | 21% | 10% | 13% | 1% | 1% |
| | 6 家庭で 読み聞かせや読書の機会を作る事を心がけている。 | 22% | 23% | 34% | 32% | 26% | 26% | 16% | 18% | 2% | 1% |
| 地域 (コミュニティ・ スクール関係 の方々 20 名) | 3 学校は、児童が意欲的に学校生活を送れるような学校づくりに取り組んでいる。 | 60% | 72% | 40% | 16% | 0% | 6% | 0% | 0% | 0% | 6% |
| | 4 学校はPTA活動や、家庭・地域との連携を積極的に進めている。 | 50% | 72% | 45% | 22% | 0% | 0% | 0% | 0% | 5% | 6% |

【考察】

- ① 読書に関して、児童・教職員・保護者ともに他項目に比べて「ややそう思わない」「思わない」の割合が高めであった
 ⇨ ボランティアの方による読み聞かせや、司書の先生のブックトーク、図書委員でのキャンペーン等を引き続き行っていく必要性を感じました。図書委員会のキャンペーンの取り組みや読み聞かせ、ブックトークなどの活動によって、児童の本への興味を高めることができていると思うので、今後も継続していきます。
- ② 児童5「自分の思っていることや考えていることを みんなに伝えることができます」で「そう思う」の割合が7%増加。
 ⇨ 校内研究で「伝え合う活動」に焦点を当て授業を工夫してきた成果が出てきたと思われます。来年度肯定的意見がより増加するよう、今後も支援、声掛けをしていきます。温かいクラスの雰囲気作りについては、今年度も取り組みを進めてきました。その上で「伝えたい」授業づくりを進めていきます。
- ③ 教職員5「『楽しい授業』『わかる授業』を実践し、授業を工夫している保護者の理解を得て、家庭学習の充実を図っている」、6「校内研のテーマに基づき、指導力を磨き研修と修養に努めている」の「そう思う」が昨年度に比べ減少。
 ⇨ 一昨年度から授業研究を主軸においた校内研究を進めています。職員一体となり授業改善に取り組むことで、意識と技術の向上を目指していきます。また、「働き方改革委員会」をうまく活用し、各教職員の強みを共有できるような研修計画を立て、学び合う姿勢を高めていきます。
- ④ 教職員6「ICT活用を進んで行っている」について
 ⇨ 校務DXの推進を行い、職員ポータルサイトを立ち上げ、これまで紙で行ってきたことをデータ管理をするようになりました。今年度は移行期ということで昨年度と比べても肯定的回答は横這い状態でしたが、今後さらに校務DXを推進していくことで、職員の意識が向上していくと思われます。

C 支援教育・児童指導部 思いやりと感謝の心を持つ子

- 互いを認め合い、信頼し合える集団づくり
- ・校内共通理解の上での、特別活動の推進
- ・CO・SC・保健室・通級連携の上での支援体制の強化
- ・「あいさつ」の定着

| 評価対象 | 項目 | そう思う | | ややそう思う | | ややそう思わない | | 思わない | | 分からない | | | |
|--|----|--|----|--------|-----|----------|-----|------|-----|-------|----|-----|-----|
| | | R6 | R5 | R6 | R5 | R6 | R5 | R6 | R5 | R6 | R5 | | |
| 児童 (519人) | 7 | 相手の事を思いやり、進んで(身近な人にあたにかい心持で)親切にしています。 | | 47% | 47% | 39% | 39% | 4% | 5% | 1% | 1% | 9% | 8% |
| | 8 | 「ありがとう」と周りの人に感謝の気持ちを伝えていきます。 | | 63% | 62% | 27% | 28% | 3% | 5% | 2% | 1% | 5% | 4% |
| | 9 | 家族・地域の人・先生や友達にあいさつをしています | | 57% | 50% | 27% | 33% | 8% | 10% | 3% | 3% | 5% | 4% |
| 教職員 (35名) | 10 | 子ども一人一人の良さや可能性を認め、褒め、励ましてやる気を育てている | | 63% | 74% | 31% | 20% | 0% | 3% | 0% | 0% | 6% | 3% |
| | 11 | 集団を通して、課題解決・人間関係を学ぶ特別活動を推進している | | 49% | 63% | 37% | 29% | 3% | 3% | 0% | 0% | 11% | 5% |
| | 12 | いじめ・不登校の早期発見と 個に応じた指導、支援を行い、各所との連携に努めている | | 77% | 83% | 14% | 11% | 0% | 3% | 0% | 0% | 9% | 3% |
| | 13 | あいさつの大切さを説き、指導している | | 66% | 63% | 26% | 31% | 3% | 3% | 0% | 3% | 6% | 0% |
| 保護者 (211名) | 7 | お子さんは思いやりを持って行動し、あいさつを大切にしている。 | | 38% | 32% | 45% | 52% | 12% | 11% | 2% | 1% | 3% | 4% |
| | 8 | ご家庭で、お子さんに生活上のルールやマナー(あいさつを含む)を守ることの大切さを説いている。 | | 63% | 59% | 35% | 37% | 2% | 4% | 0% | 0% | 0% | 0% |
| | 9 | ご家庭でお子さんの悩みに共有し、相談する時間を意識して設けている。 | | 42% | 43% | 50% | 47% | 6% | 8% | 0% | 1% | 2% | 1% |
| 地域 (コミュニティ・ スクール関係 の方々 20 名) | 5 | 児童は 安心して楽しく学校に通っている | | 65% | 62% | 30% | 16% | 0% | 0% | 0% | 0% | 5% | 22% |
| | 6 | 児童は、生活上のルールやマナー(挨拶を含む)を守ろうとしている | | 40% | 34% | 55% | 38% | 0% | 6% | 0% | 0% | 5% | 22% |

【考察】

- ① 保護者7「お子さんは思いやりを持って行動し、あいさつを大切にしている」の「思わない」の割合が12%と高い
⇒ 家庭での児童の様子を見ての回答ではないかと推察されます。学校での思いやりのある行動や挨拶の様子を懇談会や個人面談等で積極的に知らせていきます。
- ② 保護者8「ご家庭で、お子さんに生活上のルールやマナー(あいさつを含む)を守ることの大切さを説いている」、地域2「児童は、生活上のルールやマナー(挨拶を含む)を守ろうとしている」について
⇒ 教職員が挨拶や生活上のマナーを意識したことで、保護者にも地域にも周知されていると感じています。教職員の回答結果を見るとやや「そう思う」に移っている項目が多いが、13のあいさつに関してはそう思うが増加している点を考えると、挨拶指導に力を入れている実感があるのではないかと感じます。
- ③ 教職員11「集団を通して、課題解決・人間関係を学ぶ特別活動を推進している」、12「いじめ・不登校の早期発見と個に応じた指導、支援を行い、各所との連携に努めている」において、「とてもそう思う」が低下
⇒ 児童指導について、週一回以上職員間で確認を行っているのにも関わらず低下しているため、今後児童の実態を更に深く受け止め、指導に当たることについて、児童指導コーディネーターを中心に検討していきます。
- ④ 地域の方々の評価の「わからない」が大幅に減ったため、地域との連携や情報交換ができてきている結果なのだと感じます。今後も地域との連携を密にして児童を育てていきたいと思えます。

D 健康・安全部 健康でたくましい子

○心や体の健康について様々な場面を通して学び、自分の命を大切にする児童を育む
 ・防災教育の推進
 ・体力・運動能力の向上、健康な心と体づくり
 ・テーマに基づいた食育の推進
 ・安全な登下校への取組み

| 評価対象 | 項目 | そう思う | | ややそう思う | | ややそう思わない | | 思わない | | 分からない | |
|--|---|------|-----|--------|-----|----------|-----|------|-----|-------|-----|
| | | R6 | R5 | R6 | R5 | R6 | R5 | R6 | R5 | R6 | R5 |
| 児童 (519人) | 10 病気・けが・災害・交通事故から身を守ろうと気を付けて生活しています。 | 65% | 67% | 26% | 22% | 4% | 4% | 2% | 2% | 3% | 5% |
| | 11 健康な心と体を作るために、元気に外遊びをしています。 | 56% | 53% | 23% | 21% | 9% | 12% | 9% | 12% | 3% | 2% |
| | 12 給食は、自分に合った量を美味しくいただいています。 | 68% | 68% | 20% | 23% | 6% | 5% | 3% | 1% | 3% | 3% |
| | 13 事故に気を付けて安全に登下校することができます。 | 72% | 66% | 20% | 26% | 3% | 4% | 1% | 2% | 4% | 2% |
| 教職員 (35名) | 14 学校は安全管理や安全指導に留意して、事故や災害に向けての意識を高める取組みをしている。 | 69% | 66% | 26% | 31% | 0% | 3% | 0% | 0% | 5% | 0% |
| | 15 自ら体力向上を目指し、健康な生活を実践しようとする児童を育てる指導を推進している。 | 54% | 40% | 31% | 46% | 3% | 6% | 0% | 0% | 11% | 8% |
| | 16 児童が食文化や食に関わる人々に対して感謝の心を持ち、健全な食の知識・技能を身に付ける指導を推進している。 | 69% | 54% | 26% | 31% | 2% | 6% | 0% | 0% | 3% | 9% |
| | 17 学校は、安全な登下校(交通事故防止)への取組みを推進している。 | 74% | 77% | 20% | 23% | 0% | 0% | 0% | 0% | 6% | 0% |
| 保護者 (211名) | 10 ご家庭で、子どもの健康につながる基本的な生活習慣が身につくよう取り組んでいる。 | 45% | 44% | 47% | 46% | 6% | 7% | 1% | 1% | 1% | 2% |
| | 11 ご家庭で、病気・けが・災害の対応(緊急時の避難場所等)や不審者対応等について児童と話をしている。 | 36% | 43% | 49% | 44% | 10% | 10% | 2% | 2% | 3% | 1% |
| | 12 ご家庭で食文化や食に関わる人々に対して感謝の心を持ち、食べる大切さを教えている。 | 42% | 44% | 43% | 39% | 12% | 15% | 1% | 1% | 2% | 1% |
| | 13 ご家庭で安全な登下校(交通事故防止)について認識している。 | 52% | 40% | 39% | 45% | 7% | 11% | 1% | 2% | 1% | 2% |
| | 14 ご家庭で自転車の交通ルールについて話題にしている。 | 50% | / | 35% | / | 8% | / | 3% | / | 4% | / |
| 地域 (コミュニティ・ スクール関係 の方々 20 名) | 7 学校は、児童に登下校時の交通安全や不審者対応等に関する危機意識が育つような働きかけをしている。 | 60% | 27% | 25% | 35% | 0% | 0% | 0% | 11% | 15% | 27% |
| | 8 学校・家庭・地域で豊かな心を育むひまわりプランの「育てたい子ども像」が共有されている。 | 25% | 16% | 65% | 33% | 5% | 22% | 0% | 0% | 5% | 29% |

- 【考察】**
- ほとんどの項目で、「そう思う」「ややそう思う」で90%となっていて、よい評価が得られています。食や安全等についての意識が高いことがうかがえます。
 - 児童13「事故に気を付けて安全に登下校することができます」の項目で、「そう思う」が昨年に比べて増加
 ⇨ 学校での地区別指導をはじめ、地域の方々の見守り等、安全指導の成果ではないかと思えます。
 - 地域7「学校は、児童に登下校時の交通安全や不審者対応等に関する危機意識が育つような働きかけをしている」について
 ⇨ 「そう思う」が昨年の27%比べ、今年度は60%と倍以上になっており評価を得ています。地域の方の定期的な見守りなどで、児童へ実際に対応していただく場面が増えたのだと考えます。今後も地域の方と一体となり児童の安全を守っていきます。
 - 保護者11「ご家庭で、病気・けが・災害の対応(緊急時の避難場所等)や不審者対応等について児童と話をしている」について
 ⇨ 昨年に比べて、「そう思う」の割合が7%減っている。家庭で話題となるようお便りや懇談会、個人面談等で、定期的に学校から働きかけを行っていきます。